

県内企業動向調査結果

- ・調査対象企業 752社（製造227社、建設99社、卸売79社、小売97社、サービス250社）
- ・回答企業 452社（製造147社、建設73社、卸売46社、小売50社、サービス136社）
- ・回答率 60.1%
- ・実績 平成28年 7～9月期（平成28年4～6月期実績と比べて）
- ・見通し 平成28年 10～12月期（平成28年7～9月期実績と比べて）
平成29年 1～3月期（平成28年10～12月期見通しと比べて）
- ・調査期間 平成28年9月15日～平成28年10月17日

— 企業の景況感は、このところ持ち直しの動きが鈍化している —

1. 県内景気の実績と見通し

(1) 実績（平成28年7～9月期）

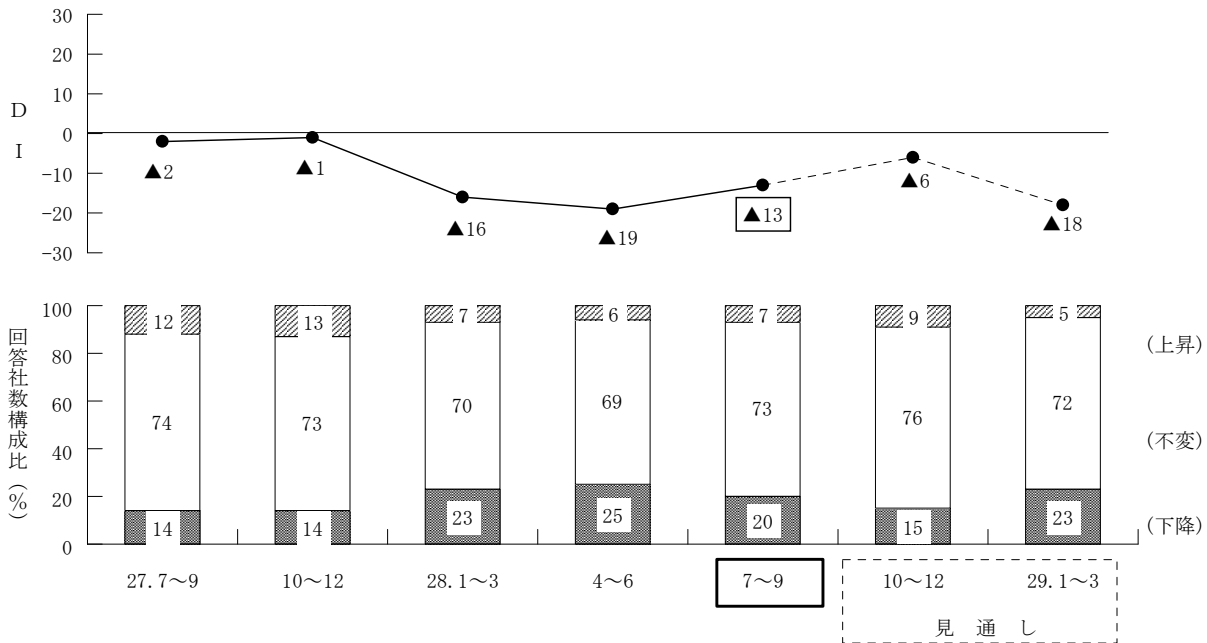
- A. 全産業の平成28年7～9月期実績は「▲13」となり、平成28年4～6月期実績「▲19」から6ポイント上昇した。また、前回調査時見通し「▲14」との比較では、実績が1ポイント上回った。
- B. 業種別にみると、製造業では平成28年7～9月期実績が「▲10」となり、平成28年4～6月期実績「▲19」から9ポイント上昇した。また、非製造業では平成28年7～9月期実績が「▲14」となり、平成28年4～6月期実績「▲19」から5ポイント上昇した。非製造業の内訳をみると、全ての業種でD Iが上昇した。

(2) 見通し（平成28年10～12月期、平成29年1～3月期）

- A. 全産業の平成28年10～12月期は「▲6」となり、平成28年7～9月期実績から7ポイント上昇する見通しとなっている。業種別にみると、製造業、非製造業ともD Iが上昇する見通しとなっている。
- B. 全産業の平成29年1～3月期は「▲18」となり、平成28年10～12月期から12ポイント低下する見通しとなっている。業種別にみると、製造業、非製造業ともD Iが低下する見通しとなっている。

〔 県内景気 〕

〔 全産業 〕



業種別動向

(「上昇」 - 「下降」)

	27年	28年		見通し			
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	29年1~3月
全 産 業	(1) ▲ 2	(2) ▲ 1	(▲ 11) ▲ 16	(▲ 13) ▲ 19	(▲ 14) ▲ 13 ↗	▲ 6 ↗	▲ 18 ↘
製 造 業	(8) ▲ 2	(4) ▲ 2	(▲ 8) ▲ 17	(▲ 13) ▲ 19	(▲ 10) ▲ 10 ↗	▲ 5 ↗	▲ 11 ↘
非 製 造 業	(▲ 2) ▲ 1	(2) ▲ 1	(▲ 13) ▲ 15	(▲ 13) ▲ 19	(▲ 16) ▲ 14 ↗	▲ 7 ↗	▲ 22 ↘
建設業	(▲ 1) ▲ 6	(▲ 1) 1	(▲ 5) ▲ 5	(▲ 16) ▲ 15	(▲ 20) ▲ 12 ↗	▲ 12 →	▲ 19 ↘
卸売業	(▲ 5) ▲ 39	(▲ 4) ▲ 9	(▲ 25) ▲ 28	(▲ 20) ▲ 29	(▲ 11) ▲ 26 ↗	2 ↗	▲ 24 ↘
小売業	(▲ 7) ▲ 6	(▲ 3) ▲ 17	(▲ 17) ▲ 25	(▲ 25) ▲ 27	(▲ 24) ▲ 18 ↗	▲ 10 ↗	▲ 24 ↘
サービス業	(0) 15	(8) 6	(▲ 11) ▲ 12	(▲ 6) ▲ 15	(▲ 13) ▲ 10 ↗	▲ 5 ↗	▲ 22 ↘

注1. 数値は実績D I、()内数値は前回調査時の見通しD I。

2. D I = 「上昇」と回答した企業の割合 - 「下降」と回答した企業の割合。

以下、「増加」 - 「減少」、「向上」 - 「悪化」なども同じ。

3. 矢印は、前回調査と比較して上昇している場合は ↗ を、下降している場合は ↘ を、同数の場合は → として表示している。

2. 自社業界景気の実績と見通し

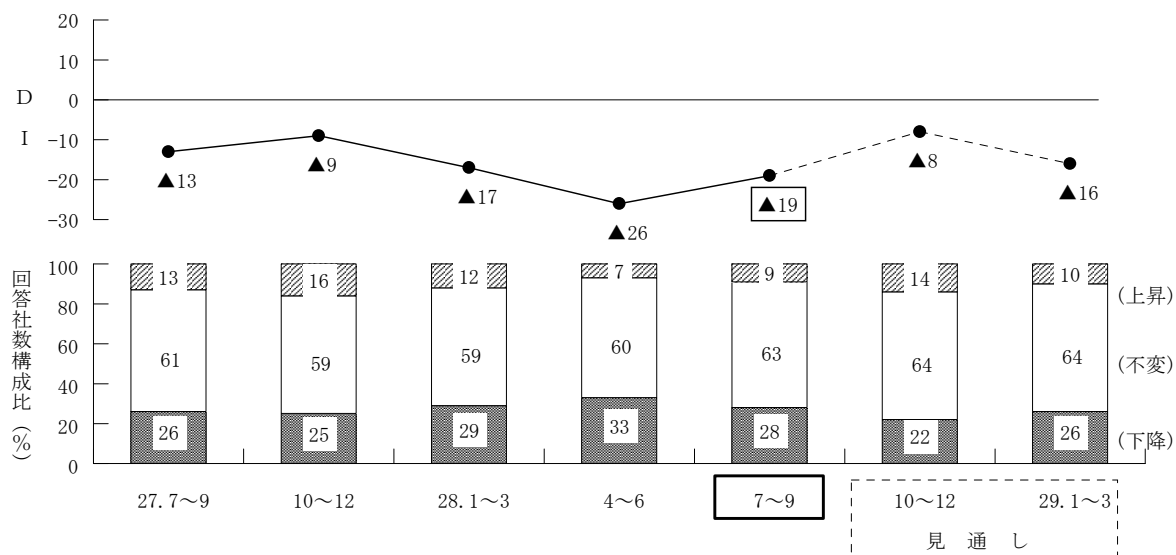
- 全産業の平成28年7～9月期実績は「▲19」となり、平成28年4～6月期実績「▲26」から7ポイント上昇した。前回調査時見通し「▲15」との比較では、実績が4ポイント下回った。

業種別にみると、製造業、非製造業ともD Iは上昇した。非製造業の内訳をみると、卸売業ではD Iが低下したが、建設業、小売業およびサービス業では上昇した。

- 全産業の先行きをみると、D Iは平成28年10～12月期にかけて上昇するが、その後は低下する見通しとなっている。

〔 自社業界景気 〕

〔 全産業 〕



業種別動向

(「上昇」 - 「下降」)

	27年	28年		見通し			
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	29年1～3月
全産業	(▲5) ▲13	(▲4) ▲9	(▲18) ▲17	(▲19) ▲26	(▲15) ▲19 ↗	▲8 ↗	▲16 ↘
製造業	(2) ▲7	(3) ▲8	(▲12) ▲17	(▲17) ▲27	(▲3) ▲13 ↗	▲2 ↗	▲8 ↘
非製造業	(▲8) ▲15	(▲7) ▲8	(▲22) ▲18	(▲19) ▲26	(▲20) ▲22 ↗	▲10 ↗	▲20 ↘
建設業	(▲6) ▲15	(▲11) ▲3	(▲8) 0	(▲18) ▲27	(▲25) ▲11 ↗	▲18 ↘	▲22 ↘
卸売業	(▲13) ▲37	(▲12) ▲18	(▲38) ▲32	(▲26) ▲30	(▲17) ▲44 ↘	▲6 ↗	▲22 ↘
小売業	(▲18) ▲31	(▲22) ▲34	(▲28) ▲27	(▲27) ▲47	(▲36) ▲34 ↗	▲18 ↗	▲16 ↗
サービス業	(▲5) 0	(3) 1	(▲21) ▲20	(▲15) ▲18	(▲12) ▲17 ↗	▲5 ↗	▲18 ↘

3. 売上高の実績と見通し

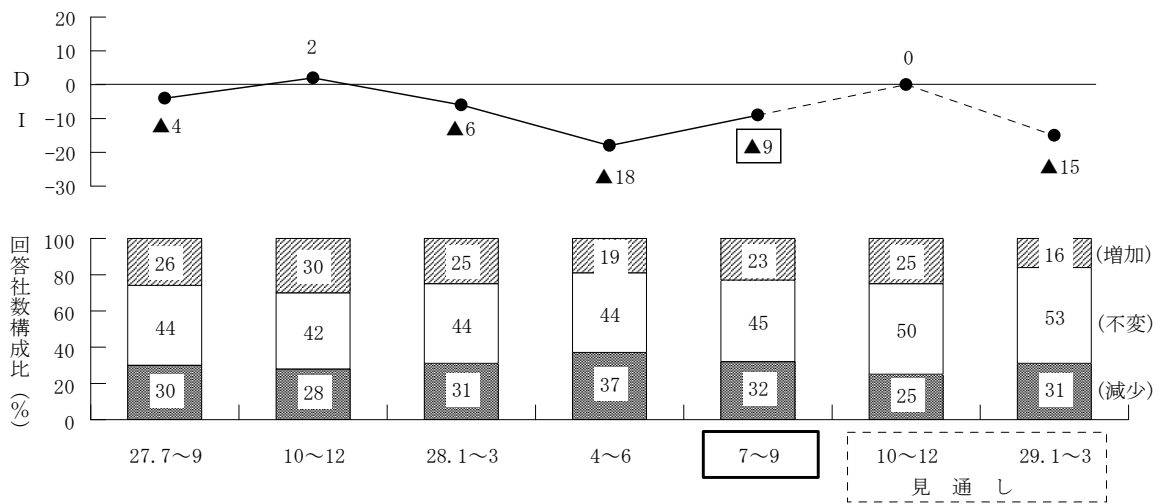
- 全産業の平成28年7～9月期実績は「▲9」となり、平成28年4～6月期実績「▲18」から9ポイント上昇した。前回調査時見通し「▲7」との比較では、実績が2ポイント下回った。

業種別にみると、製造業、非製造業ともにD Iが上昇した。非製造業の内訳をみると、卸売業ではD Iが低下したが、建設業、小売業およびサービス業では上昇した。

- 全産業の先行きをみると、D Iは平成28年10～12月期にかけて上昇するが、その後は低下する見通しとなっている。

〔 売 上 高 〕

〔 全 産 業 〕



業種別動向

(「増加」 - 「減少」)

	27年		28年			見通し	
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	29年1～3月
全 産 業	(0) ▲ 4	(2) 2	(▲ 16) ▲ 6	(▲ 13) ▲ 18	(▲ 7) ▲ 9 ↗	0 ↗	▲ 15 ↘
製 造 業	(12) 13	(13) 13	(▲ 4) 4	(▲ 6) ▲ 12	(8) ▲ 1 ↗	13 ↗	▲ 4 ↘
非 製 造 業	(▲ 6) ▲ 11	(▲ 2) ▲ 3	(▲ 21) ▲ 11	(▲ 16) ▲ 21	(▲ 14) ▲ 13 ↗	▲ 5 ↗	▲ 19 ↘
建設業	(▲ 9) ▲ 16	(▲ 2) ▲ 2	(▲ 8) 7	(▲ 19) ▲ 25	(▲ 21) ▲ 14 ↗	▲ 18 ↘	▲ 16 ↗
卸売業	(▲ 7) ▲ 16	(9) 13	(▲ 29) ▲ 28	(▲ 16) ▲ 11	(▲ 14) ▲ 19 ↘	4 ↗	▲ 32 ↘
小売業	(▲ 12) ▲ 20	(▲ 16) ▲ 27	(▲ 22) ▲ 27	(▲ 24) ▲ 44	(▲ 35) ▲ 42 ↗	▲ 10 ↗	▲ 8 ↗
サービス業	(▲ 1) ▲ 3	(1) 1	(▲ 26) ▲ 7	(▲ 13) ▲ 14	(▲ 4) 0 ↗	▲ 1 ↘	▲ 20 ↘

4. 経常損益の実績と見通し

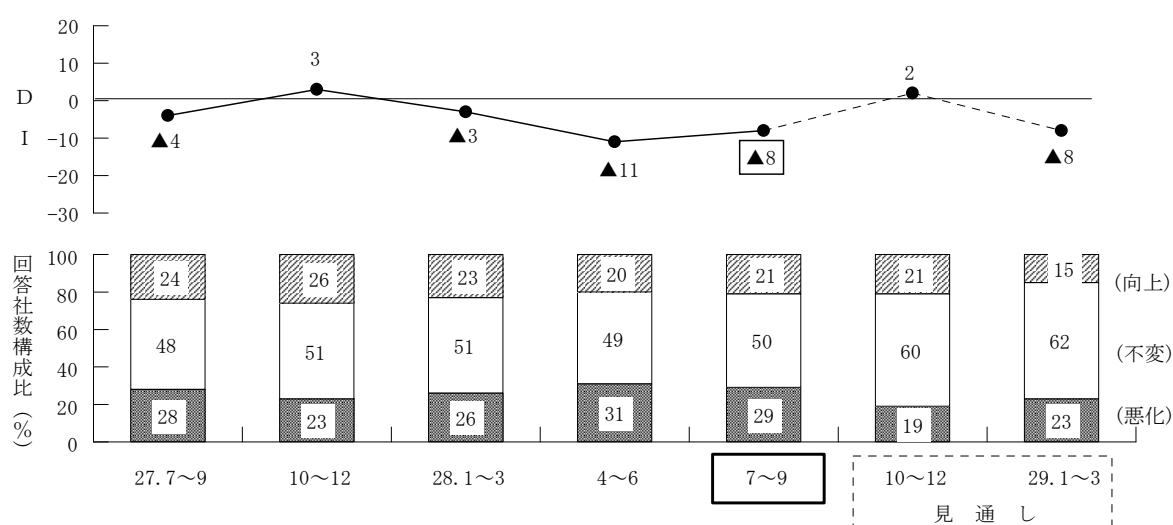
- 全産業の平成28年7～9月期実績は「▲8」となり、平成28年4～6月期実績「▲11」から3ポイント上昇した。前回調査時見通し「▲2」との比較では、実績が6ポイント下回った。

業種別にみると、製造業、非製造業ともD Iが上昇した。非製造業の内訳をみると、卸売業および小売業ではD Iが低下したが、建設業およびサービス業では上昇した。

- 全産業の先行きをみると、D Iは平成28年10～12月期にかけて上昇するが、その後は低下する見通しとなっている。

〔 経常損益 〕

〔 全産業 〕



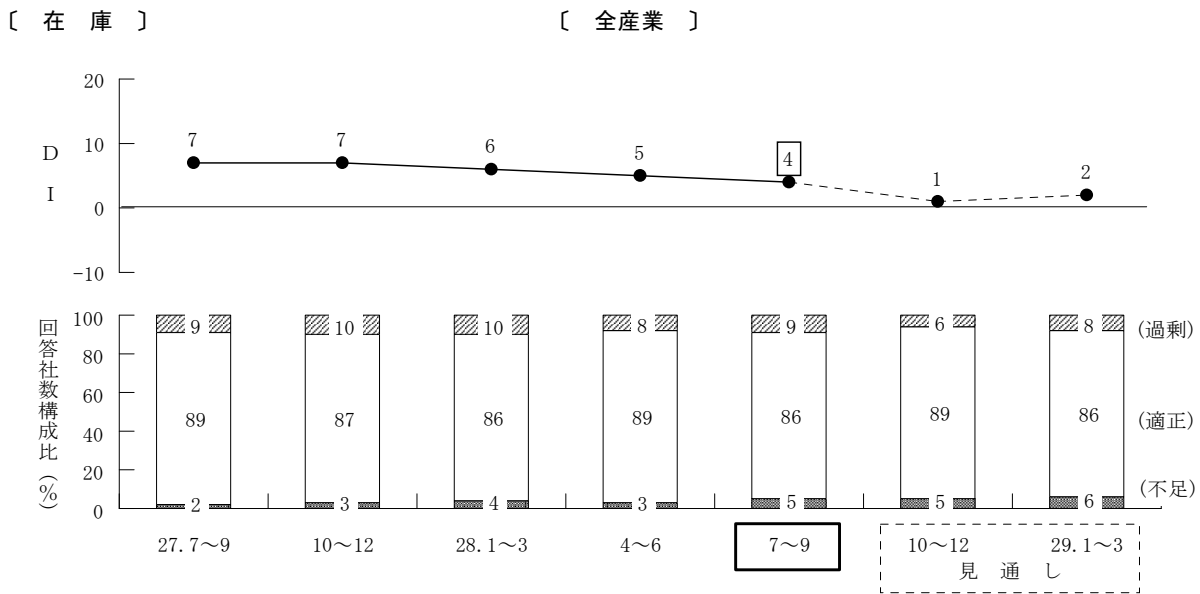
業種別動向

(「向上」 - 「悪化」)

	27年	28年		7~9月	見通し	
	7~9月	10~12月	1~3月		4~6月	10~12月
全産業	(3) ▲ 4	(3) 3	(▲ 8) ▲ 3	(▲ 11) ▲ 11	(▲ 2) ▲ 8 ↗	2 ↗ ▲ 8 ↘
製造業	(9) ▲ 1	(6) 11	(▲ 5) ▲ 4	(▲ 4) ▲ 12	(6) ▲ 3 ↗	11 ↗ 1 ↘
非製造業	(1) ▲ 5	(2) 0	(▲ 8) ▲ 3	(▲ 13) ▲ 10	(▲ 7) ▲ 9 ↗	▲ 3 ↗ ▲ 13 ↘
建設業	(5) ▲ 15	(▲ 5) ▲ 1	(4) 10	(▲ 3) ▲ 12	(▲ 10) ▲ 9 ↗	▲ 12 ↘ ▲ 11 ↗
卸売業	(▲ 9) ▲ 19	(0) ▲ 8	(▲ 20) ▲ 12	(▲ 22) ▲ 8	(▲ 10) ▲ 24 ↘	2 ↗ ▲ 26 ↘
小売業	(▲ 3) ▲ 14	(▲ 11) ▲ 10	(▲ 4) ▲ 9	(▲ 25) ▲ 28	(▲ 19) ▲ 30 ↘	▲ 10 ↗ 4 ↗
サービス業	(2) 8	(12) 7	(▲ 12) ▲ 2	(▲ 11) ▲ 4	(0) 3 ↗	▲ 1 ↘ ▲ 14 ↘

5. 在庫の実績と見通し

- 全産業の平成28年7～9月期実績は「4」となり、平成28年4～6月期実績「5」から「過剰超」幅が1ポイント縮小した。
業種別にみると、製造業では「過剰超」幅が縮小したが、非製造業では「過剰超」幅が横ばいとなった。
- 全産業の先行きをみると、平成28年10～12月期にかけて「過剰超」幅が縮小し、その後は拡大する見通しとなっている。



業種別動向

(「過剰」 - 「不足」)

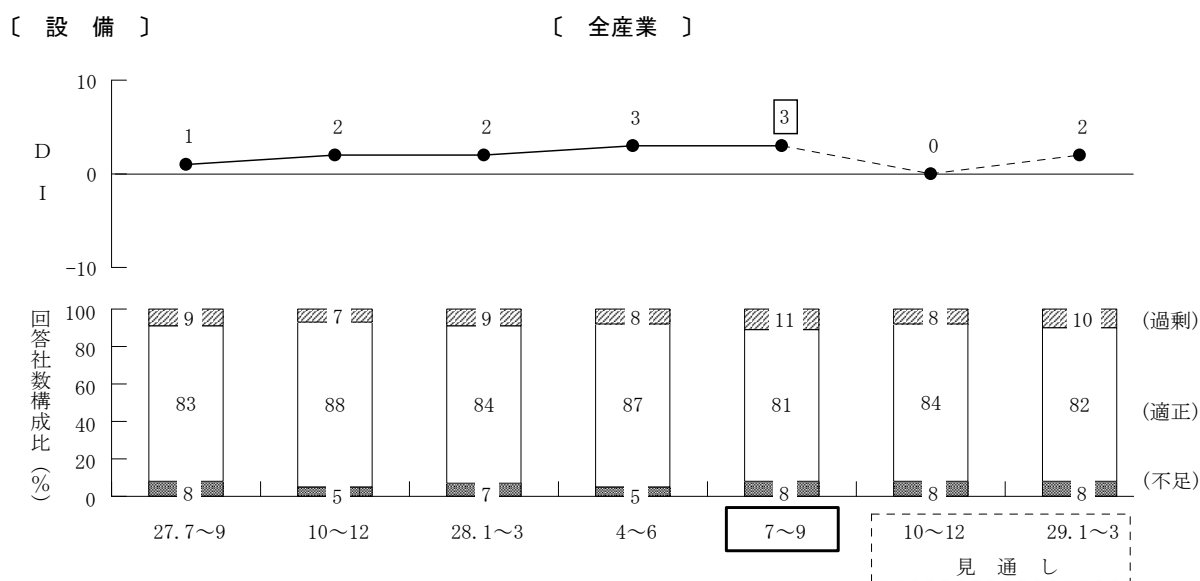
	27年		28年		見通し		
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	29年1～3月
全産業	(5) 7	(4) 7	(4) 6	(4) 5	(5) 4 ↓	1 ↓	2 ↗
製造業	(8) 11	(5) 6	(5) 12	(6) 12	(9) 8 ↓	2 ↓	1 ↓
非製造業	(4) 5	(3) 7	(4) 2	(3) 3	(1) 3 →	0 ↓	1 ↗

6. 現有設備の実績と見通し

- 全産業の平成28年7～9月期実績は「3」となり、平成28年4～6月期実績から「過剰超」幅が横ばいとなった。

業種別にみると、製造業では「過剰超」幅が拡大し、非製造業では「過剰超」幅が縮小した。

- 全産業の先行きをみると、平成28年10～12月期にかけて過不足なしとなるが、その後は「過剰超」に転じる見通しとなっている。



業種別動向

(「過剰」－「不足」)

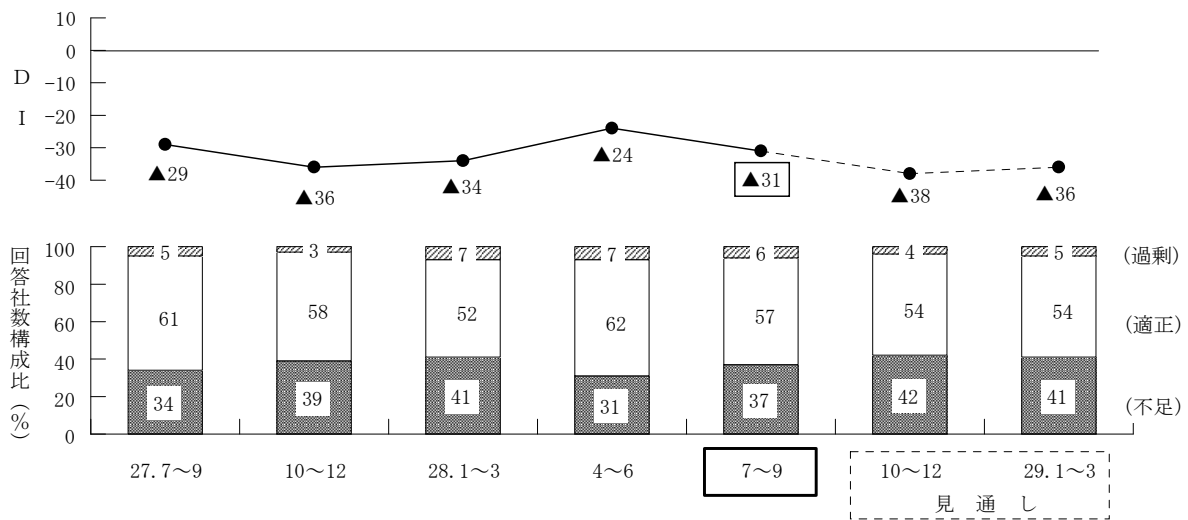
	27年 7～9月	10～12月	28年		7～9月	見通し	
			1～3月	4～6月		10～12月	29年1～3月
全 産 業	(2) 1	(0) 2	(3) 2	(7) 3	(2) 3 →	0 ↓	2 ↗
製 造 業	(6) 8	(5) 6	(7) 11	(13) 7	(4) 8 ↗	3 ↓	5 ↗
非 製 造 業	(1) ▲ 2	(▲ 2) 0	(0) ▲ 2	(4) 2	(2) 1 ↓	▲ 2 ↓	2 ↗

7. 雇用の実績と見通し

- 全産業の平成28年7～9月期実績は「▲31」となり、平成28年4～6月期実績「▲24」から「不足超」幅が7ポイント拡大した。
業種別にみると、製造業、非製造業ともに「不足超」幅が拡大した。非製造業の内訳をみると、すべての業種で「不足超」幅が拡大した。
- 全産業の先行きをみると、平成28年10～12月期にかけて「不足超」が拡大するが、その後は縮小する見通しとなっている。

〔 雇 用 〕

〔 全産業 〕



業種別動向

(「過剰」 - 「不足」)

	27年 7～9月	10～12月	28年 1～3月	4～6月	7～9月	見通し	
						10～12月	29年1～3月
全 産 業	(▲ 27) ▲ 29	(▲ 34) ▲ 36	(▲ 30) ▲ 34	(▲ 28) ▲ 24	(▲ 28) ▲ 31 ↓	▲ 38 ↓	▲ 36 ↑
製 造 業	(▲ 13) ▲ 17	(▲ 25) ▲ 31	(▲ 23) ▲ 19	(▲ 19) ▲ 12	(▲ 19) ▲ 21 ↓	▲ 33 ↓	▲ 27 ↑
非 製 造 業	(▲ 33) ▲ 34	(▲ 38) ▲ 38	(▲ 33) ▲ 41	(▲ 32) ▲ 30	(▲ 32) ▲ 36 ↓	▲ 42 ↓	▲ 39 ↑
建設業	(▲ 25) ▲ 23	(▲ 34) ▲ 40	(▲ 35) ▲ 34	(▲ 27) ▲ 25	(▲ 27) ▲ 29 ↓	▲ 35 ↓	▲ 39 ↓
卸売業	(▲ 24) ▲ 18	(▲ 27) ▲ 32	(▲ 27) ▲ 22	(▲ 22) ▲ 19	(▲ 23) ▲ 32 ↓	▲ 34 ↓	▲ 26 ↑
小売業	(▲ 25) ▲ 35	(▲ 33) ▲ 31	(▲ 33) ▲ 44	(▲ 37) ▲ 28	(▲ 25) ▲ 32 ↓	▲ 36 ↓	▲ 38 ↓
サービス業	(▲ 43) ▲ 44	(▲ 45) ▲ 41	(▲ 35) ▲ 49	(▲ 37) ▲ 37	(▲ 40) ▲ 43 ↓	▲ 49 ↓	▲ 46 ↑

8. 資金繰りの実績と見通し

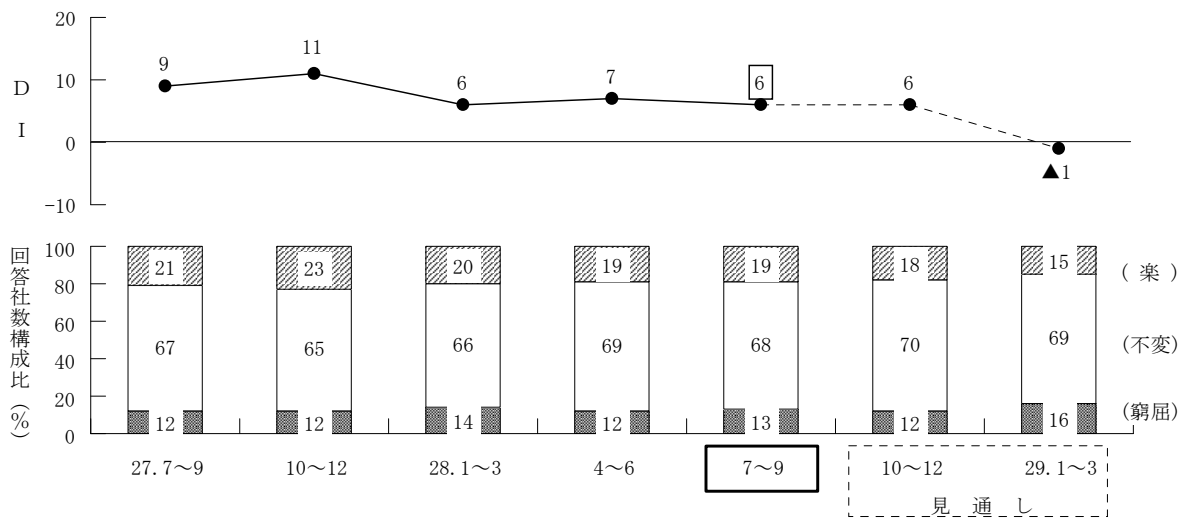
- 全産業の平成28年7～9月期実績は「6」となり、平成28年4～6月期実績「7」から「楽超」幅が1ポイント縮小した。前回調査時見通し「3」との比較では、実績が3ポイント上回った。

業種別にみると、製造業では「窮屈超」幅が拡大し、非製造業では「楽超」幅が拡大した。非製造業の内訳をみると、建設業、卸売業および小売業では「楽超」幅が縮小したが、サービス業では「楽超」幅が拡大した。

- 全産業の先行きをみると、平成28年10～12月期にかけて「楽超」幅が横ばいとなるが、その後は「窮屈超」に転じる見通しとなっている。

〔 資金繰り 〕

〔 全産業 〕



業種別動向

(「楽」 - 「窮屈」)

	27年	28年		見通し			
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	29年1～3月
全産業	(6) 9	(5) 11	(6) 6	(4) 7	(3) 6 ↓	6 →	▲ 1 ↓
製造業	(▲ 4) ▲ 9	(▲ 8) ▲ 3	(▲ 7) ▲ 7	(▲ 8) ▲ 7	(▲ 8) ▲ 10 ↓	▲ 4 ↑	▲ 7 ↓
非製造業	(10) 16	(10) 17	(10) 12	(8) 12	(9) 14 ↑	12 ↓	1 ↓
建設業	(9) 17	(8) 18	(12) 9	(12) 17	(6) 14 ↓	1 ↓	▲ 3 ↓
卸売業	(16) 10	(6) 23	(17) 26	(22) 17	(9) 13 ↓	18 ↑	13 ↓
小売業	(4) 11	(7) 12	(10) 2	(2) 5	(5) 0 ↓	6 ↑	▲ 2 ↓
サービス業	(10) 21	(15) 17	(8) 12	(4) 12	(11) 19 ↑	17 ↓	0 ↓

9. 経営上の課題

- ・ 全産業では、「競争の激化」が45.1%と最も多く、次いで「人手不足」(41.6%)、「受注の減少」(28.1%)、「人件費の上昇」(26.8%)等の順となった。
- ・ 業種別にみると、製造業では、「競争の激化」が35.4%と最も多く、次いで「受注の減少」(34.7%)、「販売、生産数量の減少」(34.0%)、「人手不足」(30.6%)等の順となった。
非製造業では、「競争の激化」が49.8%と最も多く、次いで「人手不足」(46.9%)、「労働時間の短縮」(28.5%)、「人件費の上昇」(27.5%)等の順となった。

[経営上の課題]

